

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
2023 年 6 月 9 日	
富山県知事	
新 田 八 朗 殿	
提出者	ヌヴォトン テクノロジージャパン 株式会社 環境・施設技術課 魚津環境・施設技術係
住 所	富山県魚津市東山800番地
氏 名	寺田 清孝 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名)
電話番号	0765-22-7884
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	ヌヴォトン テクノロジージャパン株式会社 魚津地区
事業場の所在地	富山県魚津市東山800番地
計画期間	令和5(2023)年4月～令和6(2024)年3月
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	電子部品・デバイス・電子回路製造業
② 事業の規模	8.1万枚（8インチ換算）
③ 従業員数	73人（3月末人員）
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	《別紙1》のとおり

（日本産業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

《別紙2》のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

《別紙3》のとおり

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	排出量	— t	— t
	（これまでに実施した取組） ・廃油類の有価物化推進（市況の変化で有価から産廃に戻りつつある） ・分別回収（更なる分別：部品毎等）による廃プラスチック類の有価物化 ・設備の最適運転微調整による廃液、汚泥発生量の減量化		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	排出量	— t	— t
	（今後実施する予定の取組） ・更なる分別による廃プラスチック類の有価物化 ・汚泥濃縮率微調整による発生量の減量化		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・排出物削減実施基準に準じた分別回収の徹底を図っている。 また、委託事業者の複線化を推進
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・優良認定事業者優先 ・発生量の多い廃棄物の複線化拡大と処理困難物の優良事業者選定

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項		《別紙3》のとおり	
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
	—		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
	—		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項		《別紙3》のとおり	
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) ・汚泥の含水率低減取組み ・設備の効率的最適処理稼働運転を継続実施		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) ・汚泥化最適運転（含水率低減）の継続		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			《別紙3》のとおり	
①現状	【前年度（令和4年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	—	—	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	—	t	—
	（これまでに実施した取組）			
	—			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	—	—	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	—	t	—
	（今後実施する予定の取組）			
	—			
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			《別紙3》のとおり	
①現状	【前年度（令和4年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	—	—	
	全処理委託量	—	t	—
	優良認定処理業者への処理委託量	—	t	—
	再生利用業者への処理委託量	—	t	—
	認定熱回収業者への処理委託量	—	t	—
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	—	t	—
	（これまでに実施した取組）			
	・事業系一般廃棄物を含た（埋め立て量／再資源化量）再資源化率99.9%以上を維持			

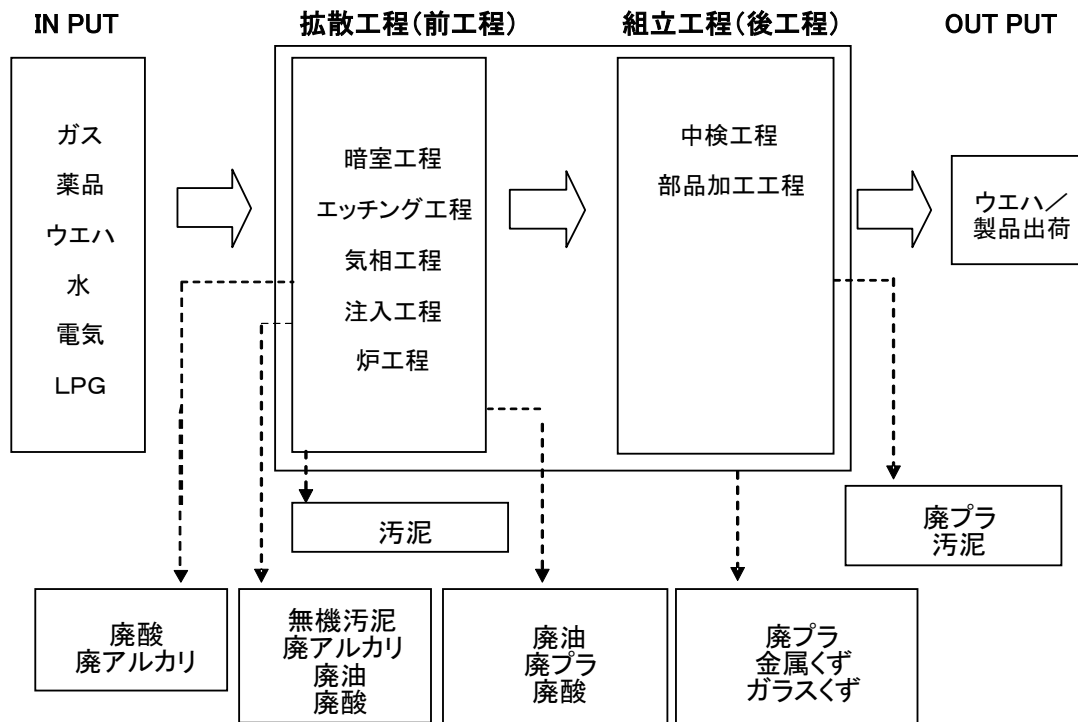
②計画	【目標】	《別紙3》のとおり	
	産業廃棄物の種類	—	—
	全 処 理 委 託 量	— t	— t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	— t	— t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	— t	— t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
	・ 中間処理後、埋め立て処理される廃棄物の再見直しで産業廃棄物の埋立量を更に低減。再資源化量99.9%以上を維持		
※事務処理欄			


(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

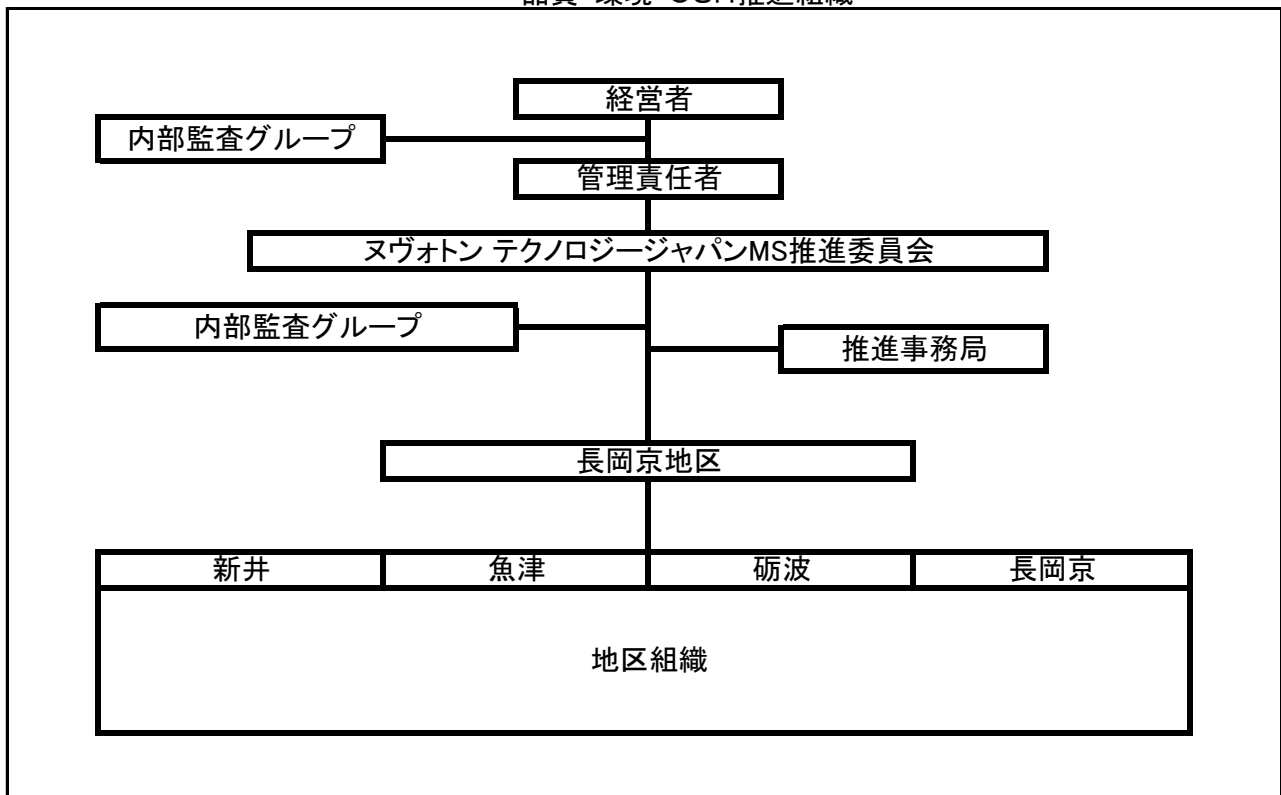
④産業廃棄物の一連の処理の工程



発生源	廃棄物	処理 ( は外部委託)		
エッチング工程	200 汚泥B	中和処理施設	脱水汚泥	セメント原料
エッチング工程	200 汚泥etc	焼却施設	焼却残さ	路盤材再利用
暗室工程	300 廃油A	焼却施設	焼却残さ	路盤材再利用
	500 廃アルカリ	焼却施設	焼却残さ	路盤材再利用
	300 廃油B	混合調整		再利用
エッチング工程	400 廃酸A	中和処理	脱水処理	路盤材再利用
	400 廃酸B	中和処理	脱水処理	セメント原料
拡散・組立工程	600 廃プラA	焼却施設	焼却残さ	路盤材再利用
拡散・組立工程	600 廃プラB	焼却施設	焼却残さ	路盤材再利用
拡散・組立工程	600 廃プラC	破碎、選別	焼却、焼却残さ	セメント原料
工場全体	1200 金属屑	破碎、選別		再利用
拡散・工場全体	1300 ガラス屑	破碎、選別	焼却、焼却残さ	路盤材再利用
拡散工程	1300 ガラス屑	破碎、選別	焼却、焼却残さ	路盤材再利用

総括責任者	所属:環境・施設技術課 魚津環境・施設技術係 寺田 清孝
廃棄物担当	組織名:魚津環境・施設技術係
長岡地区 品質・環境・OSH 推進委員会	○魚津における環境保護活動を推進する組織であり 環境マネジメントシステム活動、排出物削減活動、CO2排出削減 (省エネルギー)活動等を具体的に推進していく組織。 ・事務局:魚津環境・施設技術係
環境・施設技術 部門責任者	○廃棄物・リサイクル推進計画の策定 ○廃棄物・リサイクル推進活動 ○廃棄物・リサイクルの進捗管理(毎月) ○廃棄物管理状況の把握と改善策の検討 ○社員、構内従事者への教育、啓発 ○廃棄物処理施設の運転・維持管理状況の把握 ○処理業者、再生利用業者の調査、選定及び管理 ○委託契約の締結 ○産業廃棄物管理票の交付、管理 ○特別管理産業廃棄物管理者の設置 ○監督官庁への各種報告

品質・環境・OSH推進組織



産業廃棄物の処理の委託に関する事項									
① 現 状	【前年度(令和R4年度)実績】 単位:t								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラ	金属	廃ガラス	合計
	①排出量	1,493.8	19.3	347.9	11.8	14.6	0.5	1.6	1,889.6
	②+⑧自ら再生利用を行なった量	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	⑤自ら熱回収を行った量	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	⑦自ら中間処理により減量した量	546.6	0	0	0	0	0	0	546.6
	③+⑨自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	⑩全処理委託量	947.3	19.3	347.9	11.8	14.6	0.5	1.6	1,343.0
	⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量	176.1	19.3	347.9	11.8	2.9	0.1	1.4	559.5
	⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量	874.6	18.6	332.5	0.0	13.9	0.5	0.9	1,241.1
	⑬ ⑩のうち熱回収認定業者への処理委託	72.7	0.7	15.4	11.8	0.7	0	0.6	101.9
	⑭ ⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	(これまでに実施した取組) ・廃油類の有価物化推進 ・分別回収(更なる分別:部品毎等)による廃プラスチック類の有価物化 ・設備の最適運転微調整による廃液、汚泥発生量の減量化								

産業廃棄物の処理の委託に関する事項									
② 計 画	【目標(令和5年度)】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラ	金属	廃ガラス	合計
	①排出量	1,602	20	360	12	21	13	2	2,030.0
	②＋⑧自ら再生利用を行なった量	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	⑤自ら熱回収を行った量	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	⑦自ら中間処理により減量した量	570	0	0	0	0	0	0	570.0
	③＋⑨自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	⑩全処理委託量	967	20	360	12	21	13	2	1,395.0
	⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量	52	20	360	12	3	0	2	449.0
	⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量	962	19	345	0	20	13	1	1,360.0
	⑬ ⑩のうち熱回収認定業者への処理委託	5	1	15	12	1	0	1	35.0
	⑭ ⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	(今後実施する予定の取組) ・廃ウエーハとシート付きチップの有価物化推進 ・汚泥濃縮率微調整による発生量の低減化								